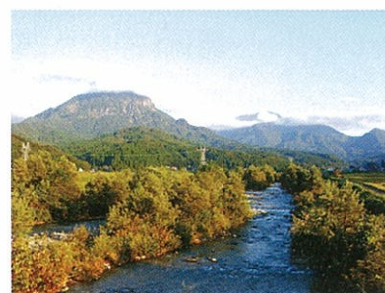
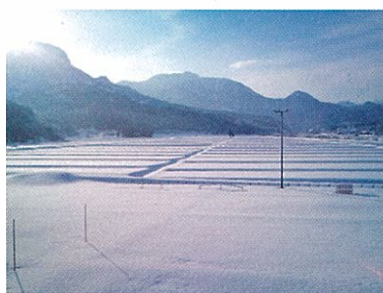
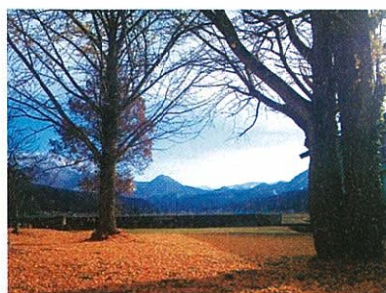
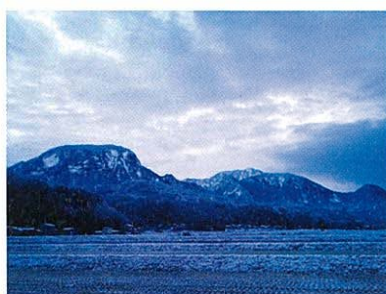
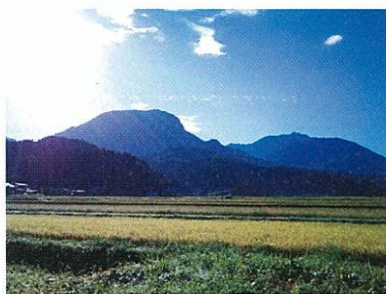


Making of 防災教育チャレンジプラン 2011～2012

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育

2011～2012

☆防災教育研修用資料☆



糸魚川市立根知小学校

目次

本編	
STAGE1:防災教育チャレンジプラン 2011 への応募へ向けて	p1
STAGE2:防災教育チャレンジプラン 2011 始まる	p5
防災通信【第2弾】第1回避難訓練・第1回地域防災懇談会	p6
特別編:防災・宿泊体験学習 2011 根知っ子よ10の特別使命をクリアせよ!	p7~9
防災通信【第4弾】防災・宿泊体験学習の取組(実践)紹介	p10~13
防災通信【第5弾】防災教室・第3回地域防災懇談会報告	p14
防災通信【第6弾】第3回避難訓練・代回地域防災懇談会報告	p15~16
STAGE3:防災教育チャレンジプラン 2011 から 2012 へ...	p17
STAGE4:防災教育チャレンジプラン 2012 始まる	p18
チャレンジャー通信【2012.4.25】防災戦隊チャレンジャー&GCB48とは	p19~20
チャレンジャー通信【2012.5.25】根知っ子防災 MISSION	p21
チャレンジャー通信【2012.5.25】第1回地域防災懇談会・非常サイレンの日	p22
チャレンジャー通信【2012.6.25】チャレンジャーの挑戦	p23
チャレンジャー通信【2012.6.25】今月の「根知っ子防災 MISSION」	p24
チャレンジャー通信【2012.7.24】今月の「根知っ子防災 MISSION」	p25
特別編:防災・宿泊体験学習 2012 根知っ子よ10の特別使命をクリアせよ!	p26
チャレンジャー通信【2012.9.25】防災・宿泊体験学習 2012(実践記録)	p27~30
チャレンジャー通信【2012.11.25】安否札を活用した防災訓練(根小屋地区)	p31
チャレンジャー通信【2012. 11.25】続「根知っ子防災 MISSION」	p32
チャレンジャー通信【2012. 12.21】これまでの取組を総括①	p33
チャレンジャー通信【2012. 12.21】これまでの取組を総括②	p34
STAGE5:防災教育チャレンジプラン 2012 終結、そして...	p35
資料編	
防災教育カリキュラムの概要もと(2012 試案版)	p36
1, 2年(偶数年度)防災教育カリキュラム(2012 試案版)	p37
3, 4年(偶数年度)防災教育カリキュラム(2012 試案版)	p38
5, 6年(偶数年度)防災教育カリキュラム(2012 試案版)	p39
防災MISSIONマル秘計画	p40
災害マネジメントカードゲーム(解説書)	p41~42



Making of 防災教育チャレンジプラン 2011~2012

STAGE1:防災教育チャレンジプラン 2011 への応募へ向けて

○防災教育チャレンジプランとは

いつやってくるかわからない災害に備え、大切な命を守り、できるだけ被害を減らし、万が一被害にあったときすぐに立ち直る力を一人一人が身に付けるため、全国の地域や学校で防災教育を推進する為のプランです。

主催：防災教育チャレンジプラン実行委員会・内閣府(防災担当)

<http://www.bosai-study.net/top.html> (防災教育チャレンジプランHPアドレス)

0. 応募までの経緯

- (0) 2010年10月末、糸魚川市教育委員会から「防災教育チャレンジプラン」の紹介があった。次年度は、入学児童の減少に伴い、学級数・教職員定数一つ減ることが分かっていたため、**応募に対しては迷いもあったが**学校として英断を下した。
- (1) 糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部、根知振興協議会会長へ応募の意向を相談し、同意及び協力をお願いした。
- (2) 12月中旬の応募締切に向けて、応募書類(予算を含めた取組計画の立案)を作成するために、地域を巡見したり、関係機関の職員と打ち合わせを行ったりしながら情報収集に奔走した。
根知公民館 糸魚川市産業部商工農林水産課 小田島建設 猪又建設 渡邊造
- (3) 取組計画案(以下の1~7)について、職員会議で職員の理解を得た上、糸魚川市教育委員会及び糸魚川市消防本部から意見をもらい計画案を修正し応募した。

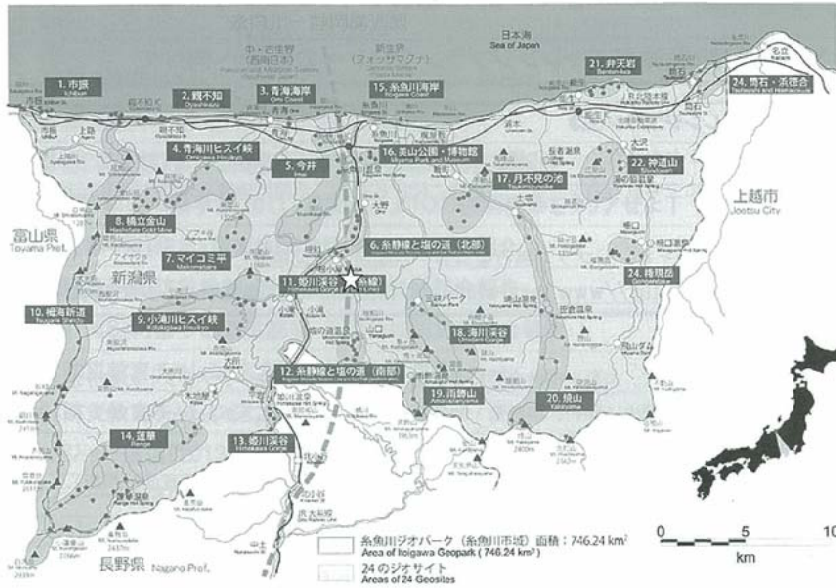
1. なぜ防災教育チャレンジプランに応募するのか

- (0) フォッサマグナパークをはじめ、雨飾山・白池、姫川溪谷などのジオパークは、根知の今昔を考え、これからの生活や生き方を考える上で重要な教材であり、現在も総合的な学習として取り組んでいる。2008年のユネスコ国際ジオパーク会議の採択宣言に「地質災害に関して社会と知識を共有するためにジオパークが役に立つ」という趣旨の一文が加えられた。糸魚川市は、多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことなどから、古来より地すべり、崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩などの地質災害が多い。糸魚川ジオパークの学習過程は、まさに大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るための**防災意識を高めていく絶好の機会である。**
- (1) 防災教育(ジオパーク学習)を進めるための予算が30万円を上限として活動支援金が配当され、専門家の話をきくための講師謝礼や交通・宿泊費をここから捻出することができ、これまで以上に**大胆な活動を展開することができる。**
- (2) 地域と一緒に取り組む活動となるため、校長の学校経営方針(地域とともに歩む)とも一致し、**学校教育目標の具現化の一助になる。**

2. 防災教育チャレンジプラン推進の基本方針

- (0) 児童や地域、教員にとって有益な活動になるようにし、多忙化に拍車をかける取組としない。
- (1) 現行の教育活動を防災教育の視点で見直し、体系化しながら関連するそれぞれの活動を再構成する。

3. 学区におけるジオサイトと自然災害の現状 (図中☆印は、根知小学校の所在地)



(1) ジオサイト

①フォッサマグナパーク (糸魚川・静岡構造線・枕状溶岩・埜の道) 【サイト6】【サイト12】
糸魚川・静岡構造線断層帯に起因する地震について、政府の特別機関・地震調査研究推進本部地震調査委員会は、以下に示す地震発生確率を公表しています。他と比べて群を抜いて高い確率。

予想される地震規模	M8程度		
地震発生確率	30年：14%	50年：23%	100年：41%
本断層帯は、今後30年の間に地震が発生する可能性が、わが国の主な活断層の中では高いグループに属する。			

②姫川渓谷【サイト11】【サイト13】

7. 11水害に代表される水害 (土石流)

③小滝ヒスイ峡【サイト9】

④小蓮華山 (氷河地形)【サイト14】

⑤雨飾山・白池の森【サイト19】

(2) 自然災害

①姫川・根知川の氾濫・土石流

7. 11水害で壊れた稲荷頭首工 (姫川) の復旧完成 (アユの放流を根知小児童が行った)
根知川上流 (中股川) の砂防工事 (5年生の理科の学習内容として見学)

②地滑り (シーサイドバレースキー場脇 蒲池地区の地盤の移動 道路に段差が見られる)

③3mを超える豪雪地区

④ナラ枯れ被害

シーサイドバレースキー場付近のナラ枯れ被害が甚大 (他と比べて赤く枯れている木の量が多い)。

カシノナガキタイムシ (カシナガ) を起因とする樹木枯損 (ナラ枯れ) は、昔から被害が単発的に発生していた。1980年代に入り日本海側で被害が集団的に発生するなど、被害が拡大している。

⑤熊・猪・猿の出没

22年度は、11月17日現在で、市教委が把握した根知地区の熊の目撃情報だけで10件 (延べ15頭)、公民館情報では (11月19日現在で)、18頭が捕獲された。

(3) 災害対策

①根知川上流の砂防工事 雨飾山荘付近：小田島建設 中股川：猪又建設 (22～23年度)

②里山砂防 (里山の手入れ) 杉の間伐

③土砂災害ハザードマップの作成と全戸配布

※基本的に根知谷は土石流、崖崩れ、地滑り地帯に覆われている上、冬季は雪深い。こうした、危険性の認識が薄いため、市は土砂災害ハザードマップを作成し、意識を高めようとした。

4. 学校・地域における防災にかかわる現状 (2010年まで)

(1) 小学校

①年4回 (火災、不審者、地震、地震火災) の避難訓練の実施

②熊被害回避のための臨時措置 (スクールバス対応)、熊出没注意の安全マップの作成

(2) 地域

2010年度の糸魚川市防災訓練を根知地区全体で実施、2011年度以降は根知地区独自の防災訓練を検討している。

5. 2011年度 (23年度) の生活科・総合的な学習の時間の内容 (これまでの流れでは)

(1) 生活科の指導では、児童の活動意欲を高めるため、児童の興味・関心を発揮させながら自分と他とのかわりを大切にし、ものごとを見つめる活動を行う。

1年…花の栽培、生き物の飼育、地域の施設の探検、地域における自然体験

2年…野菜の栽培、生き物の飼育、地域の施設の探検

(2) 総合的な学習の時間では、地域素材を生かす内容に焦点を当て、ふるさとの自然と文化、福祉と農業を中心に隔年で活動を構成していく。また、年間を通して音楽活動、外国語活動、ボランティア活動に取り組む。

3・4年…根知の文化を探ろう (地域の文化や伝統について学び親しむ活動を通して、地域の一人として自分にできること、自分の生き方について考えていく。)

5・6年…根知の農業を考えよう (米作り活動を通して、生産者の喜びや苦勞を知り、地域の活性化のためにできることを考え提案していく。)

6. 防災教育チャレンジプランの過去の実践例

- 避難訓練 (父母への引き渡し) ○避難所体験 (炊き出し・防災グッズ・避難所生活)
- 地震・火山噴火・津波等のメカニズムについての講和 ○防災ミュージカル・劇・紙芝居・カルタ
- 救急法・訓練 ○防災センターの見学 ○運動会種目「バケツリレー」「障害物レース」
- 被災者の体験講話 ○防災情報ネットワークの構築 ○地域探検と安全マップ
- 義援金集めと励ましの手紙 ○慰霊祭への参加 ○避難経路の誘導表示の作成
- 防災クッキング (非常食を用いた調理・防災料理コンテスト)

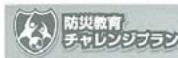
7. 考えられる根知小の活動例

キーワード「フォッサマグナと地震」「根知谷と土石流（地滑り）」「根知谷・里山と米・酒造り」

領域	主な内容		
	2011年度(2013年度)	2012年度(2014年度)	
A 教科 等	5・6年 総合	○根知で「やるまいか農業～食・住の生活を守る～」 根知の主要産業である農業を考える（守り発展させるために） ○酒造りと米・ブナ林（里山）の関係 渡辺酒造 ○里山の現地調査（ナラ枯れ被害、地滑りの危険性） 小田島建設 糸魚川地域振興局 ○根知の農業事情 小田島建設 やる米花農業 ○土砂災害を防ぐ砂防工事 小田島建設 猪又建設 ○田植え、水の管理、稲刈り体験 余った苗でパケツ稲 ○里山再生 商工農林水産課管理係 ※修学旅行+1泊で里山再生プロジェクトに取り 組む宇津木の森（東京都八王子市）へ（交通費と宿 泊費はこのプロジェクトから捻出） ○白池の森間伐体験 ○白池 200年の水利権争い	○ボランティア 防災は隣近所・地域のコミュニケーションが重要 といわれている。ボランティアの輪を地域に広げる ことで緊急時に迅速な対応ができるようになる。
	3・4年 総合	○郷土の文化・芸能 おてこ舞（日吉神社祭礼）・十二社奉納相撲： 五穀豊穣祈願 五穀豊穣＝治山治水＝・・・ 防災 秋葉神社：火災除け 水神様 水難除け	○ジオパーク学習 ○ファッサマグナのメカニズム ・フォッサマグナパーク、雨飾山・白池、塩の道な ど
	1・2年 生活	○サツマイモの栽培と非常食としての備蓄 ○地域探検→安全マップの作成→PTA安全指導 部（注意看板の検討）	○親を亡くしたウリ坊または小狸の飼育 飼うか飼わないか・大きくなったら山に逃がす か・・・命の教育
	5・6年 理科	○大地のつくり 山寺地内・フォッサマグナパークの地層観察 地震・火山のはたらきと大地の変化	○流れる水の働き 水害・水害対策
B 行事 等	宿泊体 験学習	X：サバイバル体験（森小屋づくりと電気のない生 活） 妙高少年自然の家キャンプサイト 立ち木を柱として小屋を作る	Y：歩荷茶屋を用いた宿泊 Zの避難所体験を生かした宿泊
	避難訓 練	○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者 のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災	○従来の避難訓練+体験活動 or 専門家・被災体験者 のお話など ①地震 ②火災 ③防犯・熊 ④地震・火災
C そ の 他	児童会	○緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義につ いて ○被災地への義援金集め	○緑の羽根共同募金・赤い羽根共同募金の意義につ いて ○被災地への義援金集め
	その他	※地域防災組織の立ち上げ これとBのZ（避難所体験）は連動 ○避難所生活体験者及び避難所運営体験者を招い た研修会 ○避難所に必要な物品の整備 不要になった毛布の寄付依頼、非常食の備蓄 ○情報ネットワークの整備 メール配信を用いた緊急連絡通知	Z：避難所体験（学校での電気のない宿泊、炊き出 し体験）+地域防災訓練との連携（大雨による 土砂災害 or 地震） 被災体験者、避難所運営者のお話 ※PTC行事または地域行事として実施 週休日 または夏休み中

A・B・Cのいずれか一つまたは二つの領域の内容を行うことを目標とし、1年目のチャレンジプランは5・6年生の総合を核として実施し、上記内容を2～3年次計画（A～Bは2年サイクルで実施）で進める方向で検討した。

※実際に行った内容とは異なります。



Making of 防災教育チャレンジプラン 2011～2012

STAGE2:防災教育チャレンジプラン 2011 始まる・・・

0. 始まりは3. 11

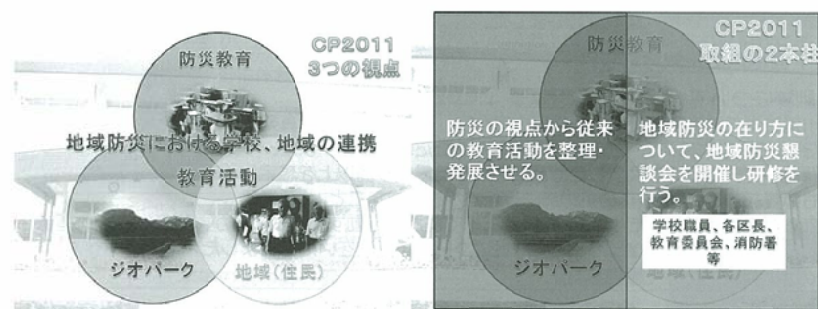
2011年2月25日、CP2011の実践団体が一堂に会し、4月からの取組を紹介し合った。（後に釜石の奇跡で有名になった）あの釜石東中学校も同じ実践団体として、津波を想定した小学校との合同避難訓練の取組を紹介した。

その2週間後の3月11日、宮城県沖でM9の大地震が発生し、未曾有の被害をもたらした。被害状況が段々と明らかになるにつれ、東北地方からCPに参加していた複数の団体の安否が心配に・・・しばらくしてから、CP事務局から『実践団体（建物または地域）は甚大な被害にあったものの関係者は無事である』との連絡が入った。「まさに防災教育の成果！」の驚きとともに、「当校は重大なことに携わっている！」という使命を痛感！

2011年3月11日から今もなお続く東日本大震災の恐怖。今、自然災害に備えることは急務です。…（中略）…糸魚川市は、多種多様な地質と複雑な地質構造をもつことなどから、古来より地すべり、崩落、土石流、地震・火山災害、雪崩などの地質災害が多い所です。糸魚川ジオパークの学習過程は、まさに大地の成り立ちや自然災害を学ぶことであり、その学ぶ過程は、私たちの生命と財産を守るための防災意識を高めていく絶好の機会であると考えます。

取組の3つの視点

取組の二つの柱



1. これまでの教育活動（総合的な学習の時間や学校行事）を「防災」の視点で整理し、発展・充実させて取り組む。
2. 根知小学校を避難所とした場合の地域防災組織の運営について地域とともに研修する。（後略）…

【防災通信①（2011年4月）より抜粋】

次頁、防災通信②～⑥をご覧ください。

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



1. 第1回避難訓練

5限の授業開始早々に緊急放送「緊急地震速報が出されました。強い地震が起きる可能性があります。倒れやすいものから離れ、机の下にもぐりなさい。」…震度4の地震発生…「地震はおさまってきました。先生の指示に従い、すぐにグラウンドへ避難しなさい。」

地震を想定した避難訓練を実施しました。子どもたちは、「お・は・し・も」を意識した行動がしっかりとできましたが、「頭を帽子や教科書等で守ること」については、「しっかりとできなかった」と評価する児童が多かったです。

今後、この頭を守ることに、とても嬉しいお知らせがありました。根知公民館の事業として、地域のボランティアの方々から子どもたち全員（職員分も）の**防災頭巾**を作ってくださいということです。子どもたちが、地域の方々から支えられていることに感謝申し上げます。



2. ジオパークと自然災害についての学習会



フォッサマグナパークの学芸員：竹之内耕様から、ジオパークと自然災害について、お話をいただきました。

冒頭に自然災害の種類を確認し、糸魚川ジオパークの豊かな自然や伝統文化などの魅力に触れながら、ジオパーク特有の自然災害（火山の噴火、土石流、崖崩れ・地滑り、雪崩など）について、とても分かりやすく説明をしていただきました。ジオパークの学習は、地域や災害の学習でもあることをみんなで確認しました。



3. 第1回地域防災教育懇談会

①避難訓練について

糸魚川消防本部防災室防災係：小林正広様から、避難訓練に臨む真剣な子どもたちの態度について、とてもよい評価をいただきました。また、今後の課題として、「ガラスが飛散し足もとが悪くなる震度5弱以上を想定した訓練も必要なこと」「低学年の机の脚の握り方が弱かったこと」「頭を保護することが不徹底であったこと」「児童は黙って静かに行動するのがよいが、職員は必要な指示を大きな声でもっと出してもよかったこと」などについてご指摘をいただきました。

②今後の取組について（意見抜粋）

- ・現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯など条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。そうした際に、児童との連絡の手段・体制が問われてくる。
- ・避難訓練の事前連絡を児童だけでなく教職員にもせずに訓練を実施したことがある。職員には好評であり、日頃の職員の心構え・意識が高まる。
- ・第2回と3回の間がある。防災・宿泊体験の経験後に、その経験を生かし、夏休みなどを利用して2～3泊の避難所体験をさせてみてはどうか。
- ・宿泊体験の際の非常食については、市として提供できるものがあるので相談してほしい。
- ・カードゲームを用いた防災学習は、事前説明がないと効果がないものもあるので検討が必要。

③総括（要約）

市教育委員会指導主事：松縄隆之様から、「防災教育は、“万が一のためではなく、いつ起きてもおかしくない・だれにでも必要なこと”としてとらえたい。そして、自然のすばらしさと恐ろしさを再確認するとともに、ふるさとへの愛着をもたせたい。」「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにする。また、被災地では、中高校生が大事な役割を担っている。子どもたちをこの防災教育を通して、これからの担い手として活躍できるよう育ててほしい。」とご指導をいただきました。

特別編：防災・宿泊体験学習 2011 根知っ子よ10の特別使命をクリアせよ！



1. 実施までの経緯（ 部はプランのキーワードになった部分）

- (1) これまで当校では、隔年で行われる高学年の修学旅行以外に、集団宿泊体験学習を実施してこなかった。しかし、(新)学習指導要領には、総則第1教育課程編成の一般方針の2「学校における道徳教育は、・・・道徳教育を進めるに当たっては、・・・児童が自己の生き方についての考えを深め、家庭や地域社会との連携を図りながら、集団宿泊体験やボランティア活動、自然体験活動などの豊かな体験を通して・・・社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないようにするなどに配慮しなければならぬ。」と記されている。このことを受け、2011年度は、全校で行う集団宿泊体験学習を実施したいと考えていた。
- (2) 宿泊地の選定に当たって、経費のあまりかからない少年自然の家や遠足を兼ねて（学校行事の精選）市内のキャンプ場（しかし、テントは持ち込みとなり、歩くには遠い場所）を利用することなどを候補地として検討していた。そんな折、地元の宿泊施設（歩荷茶屋）を利用することを地域住民から強く勧められたこともあり、防災教育チャレンジプランの活動支援金を歩荷茶屋の宿泊代に充て、地元にお金を落とす方向で宿泊体験活動を計画することにした。
- (3) 2011年5月9日の第1回避難訓練後の地域防災懇談会（学校職員と地域の各地区長、公民館長に加え、市教育委員会、市消防本部防災室、根知駐在所長等が構成メンバー）で、今回の避難訓練や今後の計画について意見をいただいた。

①避難訓練について（市消防本部防災室防災係長）

「ガラスが飛散し足もとが悪くなる震度5弱以上を想定した訓練も必要なこと」「低学年の机の脚の握り方が弱かったこと」「頭を保護することが不徹底であったこと」「児童は黙って静かに行動するのがよいが、職員は必要な指示を大きな声でもっと出してもよかったこと」など

②今後の取組について（意見抜粋）

「現実的なことを想定し、地震の震度や時間帯など条件・状況を厳しいものにした訓練を実施していく必要がある。そうした際に、児童との連絡の手段・体制が問われてくる。」「避難訓練の事前連絡を児童だけでなく教職員にもせずに訓練を実施したことがある・・・日頃の職員の心構え・意識が高まる。」「第2回と3回の間がある。防災・宿泊体験の経験後に、その経験を生かし、夏休みなどを利用して2～3泊の避難所体験をさせてみてはどうか。」など

③総括（市教育委員会指導主事）「防災教育は、“万が一のためではなく、いつ起きてもおかしくない・だれにでも必要なこと”としてとらえたい。そして、自然のすばらしさと恐ろしさを再確認



させるとともに、ふるさとへの愛着をもたせたい。」「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにしていく。また、被災地では、中高校生が大事な役割を担っている。子どもたちをこの防災教育を通して、これからの担い手として活躍できるよう育ててほしい。」

2. フランの検討 (部はフランのキーワードになった部分)

(1) 2011年5月9日の第1回地域防災懇談会後の職員会議で、1次計画案について協議した。

1次計画案の概要

「白池の森までの遠足の途中(シーサイドバレー付近)で震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの宿泊施設(歩荷茶屋)に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電状態(水道は夜復旧・・・)となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・」の想定の下、1泊2日で次の五つの活動内容を仕組む。

①電気のない生活体験 ②非常食での生活体験 ③カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習 ④根知の土石流・土砂災害についての体験談 ⑤避難(移動)訓練

この会議で、次のような意見が出された。

「災害時対応訓練とは言え、この内容では**楽しさがない**。夜は星の観察とか・・・」といった意見の一方で、「非常食(おやつ)の300円は多いのでは」「2日目の朝食に、炊き出しのご飯を食べさせるよりも避難所生活を想定し、少ない非常食を自分たちで考えて分け合う方が、**児童はいろいろ考えることができよい**のでは」「リヤカーを用いるのなら帰りも歩かせて、お腹を空かせた方が、給食のありがたさが分かるのでは」など、ハードルを上げる意見が多く出された。また「帰校後の保護者への児童引き渡しについてどうするか」「**児童・保護者への事前の通知では、どこまで知らせるのか**」「児童が職員を頼らないようにした方がよいと思うが、職員はどんな立場で参加するのか」など、初めての取組だけに懸案事項は尽きなかった。

さらに「遠足の途中で地滑り地点(統合になった蒲池小学校の近く)を見学に行く想定に無理はないか?遠足に行く目的が不明確」「**切実感と児童のモチベーションを高めるにはどうしたらよいか**」と・・・

(2) 5月の職員会議での検討結果に基づき、6月6日の職員会議で修正案(本計画案)について再検討した。協議した結果に沿って、各職員が担当のMISSIONについて、具体的な計画、準備を進めることになった。

3. 防災・宿泊体験学習推進のポイント

実施までの経緯でキーワードとなったことを積極的にプランに取り入れた。例えば、

- (0) 職員の個性を生かしながら全職員が各MISSIONを担当することにより、全職員でプランを創り上げていく自覚(効力感)を高めようとしたこと
- (1) 目的意識を持たせるため、来年迎える創立40周年と遠足のコース(統合された小学校付近が地滑り地帯となっている)を関連付けたこと
- (2) 児童のモチベーションを高めるため、取り組ませたい活動は**MISSIONとして提示し、事前にポスターでプランの想定を通知した**こと(資料1)
- (3) 児童にワクワク感と連帯感を持たせるため、各MISSIONはボード(スケ



資料 1

ッチブック)で児童に提示し、MISSIONの内容を児童全員で声に出して読むようにしたこと

- (4) 既存の縦割り班(4班、各班8名)を活用し、班長を中心として、相談、協力しながら活動を進めること
- (5) 班長は、班員の安全確保に努め、班長同士でも相談しながら取り組むこと(被災地でのボランティア活動の学び)
- (6) 班長としての自覚を高めるため、班長はロゴマーク入りのワッペンを腕につけること(資料2)
- (7) 職員は、MISSIONを提示するとき以外は、避難所に一緒に避難している地域住民(避難民)として振る舞うこと
- (8) 楽しさを本プランの前面には出せないと判断し、また市教委の「避難所での子どもたちは、その環境を明るく活気あるものにしていく」の言葉を受け、避難所を明るくするための**即興スタンプをMISSIONとして実施すること**
- (9) 保護者に食事内容(活動の趣旨)についての理解を得るために、持参する非常食(おやつ)の内容は事前に家庭で相談して準備するよう通知したこと
- (10) 本プランは**地域防災懇談会メンバーに案内**を出し、活動の様子について意見をもらうようにしたこと



資料 2

4. 防災・宿泊体験学習の概要

- (1) 期 日 2011年6月30日(木)・7月1日(金)
- (2) 対 象 全校児童 32名 教職員 6名
- (3) 内 容

【想定】

来年に創立40周年を控え、根知小学校の歴史を訪ねる遠足へ、途中(シーサイドバレー付近)震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの宿泊施設(歩荷茶屋)に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電状態(水道は夜復旧・・・)となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・

上記の想定を基に、以下の10のMISSION(特別使命:課題)を児童に提示した。

- MISSION 1: 蒲池地内の地滑りについての学習
- MISSION 2: 校地外での地震避難訓練
- MISSION 3: 電気・水のない生活体験
- MISSION 4: カードゲームを活用した自然災害発生時対応についての学習
- MISSION 5: 非常食での生活体験 ①
- MISSION 6: 避難所を盛り上げる即興スタンプ
- MISSION 7: 非常食での生活体験②
- MISSION 8: 根知の土石流・土砂災害についての学習
- MISSION 9: 根知の七夕飾り
- MISSION X: 避難所清掃

※プランの実際は、防災通信④(2011年7月)をご覧ください。

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



根知っ子よ！10の特別使命をクリアせよ！

1. わらい

集団での宿泊体験や10この防災にかかわる課題(MISSION)の解決を通して、自然災害や災害発生時の対応について理解を深めるとともに、生きる力を育む。

2. 期日 平成23年6月30日(木)・7月1日(金)

3. 対象 全校児童 教職員

4. 内容(想定)

来年に創立40周年を控え、根知小学校の歴史を訪ねる遠足へ、途中で震度6強の地震が発生。交通網が遮断されたため、近くの歩荷茶屋(シーサイドパレスキー場)に避難した。歩荷茶屋は、ガスは利用できるが地震の影響で地域一帯が停電・断水状態(水道は夜復旧・・・)となっていた。保護者の迎えを待つため、歩荷茶屋で一晩を過ごすことになる。児童は、遠足用の飲み水と万が一の非常食を持参していた・・・

5. 日程

1日目(6月30日) 予定のコース(約8km): 根知小学校→旧根知小学校→蒲池小学校(地滑り地帯)→歩荷茶屋



天候は、断続的な雨！
5:56 新潟県中越地区 震度2
8:16 長野県中部(糸魚川-静岡構造線上)
震度5強の地震発生
8:21 同上 震度4の地震発生
8:30 同上 震度2の地震発生
※<http://tenki.jp/earthquake/>より

これまでの雨量や断続的に降る雨、同じ断層上での地震発生を踏まえ、蒲池地区の地滑り地帯及び蒲池小学校の見学は中止し、写真スライドを用いた学習会へ変更することを決定しました。

○出発式(1:10) 旧根知小学校へ出発(1:45) 雨が上がり青空が...上級生が下級生を気遣い、リヤカーに乗せてあげたり...○旧根知小学校(2:20)



※現根知小学校は、平成11年に今の場所(もと姫川中学校)へ引っ越してきました。平成14年には、山之坊小と小滝小が統合されました。それまでの旧根知小学校は、39年前の昭和48年に、上根知小と下根知小、蒲池小の3校が統合され、もと根知中学校の場所で誕生しました。

この後予定していた蒲池小(地滑り地帯)の現地見学は地震のため中止となり、歩荷茶屋を目指して移動・・・

○MISSION2「地震だ避難せよ！」(3:00)

- ・(避難訓練)緊急地震速報が出されました。まもなく大きな地震が起きる可能性があります。倒れそうな物から離れて、広場の中央に集まり、しゃがみなさい。
- ・(...震度6強の大きな揺れ...)揺れがおさまりました。
- ・職員及び班長は、人員点呼とけがの状況を確認しなさい。(校長へ報告)
- ・周囲の状況を確認したところ...(中略)...これから歩荷茶屋へ避難します。職員の指示に従って避難しなさい。
- ...(中略)...(避難後人員点呼・報告)
- ・避難が完了しました。以上で避難訓練を終わります。



○避難所(歩荷茶屋)入所式(3:15) ※MISSION3「電気と水のない夜をすごせ！」の発表

○MISSION1「地滑り地帯を観察せよ！」(3:40)講師：土工農林水産課 山岸睦雄様



地滑り地帯の写真 今の蒲池小学校の写真

○班長会議(4:20)

内容：「避難所集会の進行につて」「室長の選出について」「MISSION3、4について」「先生たちは避難民であること」など



※会議の途中で、「2階でドタバタと大騒ぎ・・・」、早速このことをどうすべきか、班長たちで話し合いました。
※班長は、各部屋にもどって、避難所での過ごし方を班員へ伝え、避難経路を確認したり、避難所生活で分らないことを班員にきいて集約したりしました。
例「部屋に時計がないので時間が分かりません」の意見など
※避難所に用意されていた時計付きのライトを含め、各部屋に2つのライトが配られました。

室長は、ライトがつか、時計がっているかなど、だれに言われることなく、自ら確かめていました。

○MISSION4「カードゲームで防災を学べ！」(5:10)



「なますの学校」と「SHUFFLE」がそれぞれ2セット用意され、2班ずつ前半で交替して実施しました。

<http://www.plus-arts.net/> プラス・アーツのホームページより

○班長会議(6:10)

・MISSION5について

- ・持参した非常食(200円程度のおやつ)と、配給された1.5リットルのペットボトル5本(4班と避難民としての職員分)で過ごす。
- ・持参した水は食中毒予防のため飲んではいけない。

※「持参した水を捨てるのはもったいない!」「手洗いに使えばいいんじゃない!」「その考えいいね」「でもどうやって洗う」「・・・」「水をためる入れ物があるといいね」「使えそうな物をさがしてみよう!」歩荷茶屋内をさがして、おおきなボール(おけ)を見つけました。それを使って・・・

・MISSION6について

※回会進行は、班長4人で相談して決めることに・・・

○MISSION5(6:30)



※班長会議の内容を班員へ報告、持参した水で手洗いし、ペットボトルの水を分け合いました。子どもたちにとって、おやつだけで食事をすませられることは、案外苦にならなかった?ようです・・・非常食の中身は、パン・スナック菓子・アメ・チョコレート・バナナ・カロリーメイトなど

○MISSION6「スタンプでみんなの心を明るくせよ！」(7:15~8:30)



市教育委員会こども課松縄先生から、避難所や地域における子どもの果たす役割(明るくする・希望)についてお話をさせていただきました。

お話の中で、とてもさびしいことの例えて、「教頭先生のない教務室は、〇が〇〇たような・・・」の〇〇に入る言葉はなんでしょう?の問いに対して、「教頭先生がない教務室は、ロウソクの火が消えたような・・・」(TIさん)は大うけでした。(ほとんど当たっているけど、ロウソクの火は小さいね・・・)



クイズ じゃんけんピラミッド クイズ 宝さがし

時間が足りなくなって、職員ドリームチームによるスタンプをカットするになってしまいました。

○電気のない夜(9:00)~朝(6:30)へ



各部屋の懐中電灯は2つしかないため、下級生がトイレに行く時は、上級生が付き添ってあげていました。また「ベッド(1段目)で寝ている〇〇さんが、〇〇さんの上に落ちたら大変だから、ほくが代わるよ」など、各部屋では、互いに相手のことを考えてすごしていたようです。



2日目(7月1日) 天候は、やはり断続的な雨!

○班長会議(6:40)

・MISSION7について

「水道の水は使えます。配給されたパン(6本入りチョコチップパン5袋、メロン?パン5袋)を4班と避難民(職員)で分けて食べる。」

※「どうやって分けようか」「班でそれぞれ一袋ずつ分けよう」「あとは班で相談してきめよう」



○MISSION7「非常食をみんなで分けろ！」(7:00)



みんなで少ないパンを分け合って食べました。量が少なすぎると思いましたが、案外足りることが分りました。

講師：小田島建設の中村勉様・加藤政人様

○MISSION8「根知の災害を学べ！」(8:40)

根知の災害写真

土石流(根知川)

地滑り(大神堂)



過去、11~12年に1度、大きな災害が起きていたそうです。今年は、そろそろ・・・

○MISSION9「根知の七夕かざりをつくれ！」(9:30) 山口老人会 田上悦子様他



3. 4年生が「総合」で調べたことを発表 健康・安全を祈願! みんなで記念撮影

○MISSION10「使ったところをきれいにせよ！」(10:15)

各班で考えて、利用した場所の後片付けとゴミ拾いを行いました。

○避難所過所式(11:00) ○根知小学校へ

○帰校式(12:00)



帰りの道中で、郵便局のみなさんからアメをいただきました。「ありがとうございました。」心配された天候も、行きも帰りも、移動中は奇跡的に雨が降らず、全行程を歩くことができました。

関係者のコメント

①糸魚川市教育委員会こども課松縄先生から

「先日の宿泊体験学習は私の予想をはるかに超えた立派な活動であったと思います。何よりも印象的であったのは、徹底的に子ども達に考えさせる姿勢を貫き通していた点です。ともすると小学生段階では大人は手のかけすぎ、子どもは指示待ちに陥りがちですが、災害という極限状態の中では考え抜いて知恵を出すこと、臨機応変の対応ができることが何よりも重要になってくると思います。それだけに、今回の根知小の取組はそれらを見据えた先進的かつ実践的な内容であったと思います。我々が考える以上に子どもは可能性と力をもっています。今回、根知小の宿泊体験学習に同行させていただき、あの子ども達なら間違いなく、災害時においても根知の宝として活躍してくれることを確信できました。(後略...)」

②取材をされた新潟テレビ21の近藤さんから

「直前まで楽しく歩いてきたのに、避難訓練が始まってからは、一転して真剣な表情になり、その姿に感動しました。」

③歩荷茶屋の伊藤さんから

「みなさんが帰った後、ルームメイクの職員が使った部屋の掃除に行ったら、部屋があまりにもきれいになっていたのでびっくりしたと言っていました。すごいですね。」



“避難先の一夜、体験” 根知小 校外で避難訓練



7月5日の新潟日報より

7月2日の糸西タイムスより

この取組の様子は、新潟日報、糸西タイムスで新聞報道され、7月5日の新潟テレビ21(UX)で放送されました。

また、活動経費(宿泊費・講師謝礼・ライト等)と印刷費のすべては、防災教育チャレンジプラン活動支援金で対応しています。



根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育



1. 土石流災害のしくみと根知川上流の砂防対策

(1) 土石流災害のしくみについて

講師：渡瀬智保 様（国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所 建設監督官）



はじめに土石流の発生の仕組みについて、模型を用いて分かりやすく解説していただきました。その後、実際の土砂崩れや土石流の迫力ある映像を交え、「土砂が流れ出すと3～4mの大きな石をも動かす大きな力があること」、「1回目の土砂崩れが一番大きいとは限らず、1度崩れた所が2度、3度とさらに大きく崩れることもあること」などについて説明がありました。

(2) 根知川上流の砂防対策について

講師：近藤栄樹 様（猪又建設株式会社 土木工事長）

「砂防ダムってなに？」と、砂防の目的から砂防ダムの種類、そのダムの果たす役割（効果）について、具体的に根知川上流の砂防ダムを例に説明していただきました。

今年も台風12号や15号、集中豪雨による土砂災害や洪水といった生活を脅かす自然災害が多く発生しており、砂防事業は、生活を守る上で大変重要であることをまとめとしてお話しされました。



2. 知っておきたい家庭における災害時の対応

講師：五十嵐勝治 様（系魚川市消防本部防災室 防災係主査）

様々な自然災害による被災の様子を画像で紹介していただき、寝ているときや料理をしているとき、お風呂に入っているときなど、学校以外のさまざまな場面を想定して、それぞれの場面で災害が発生した際にどうしたらよいか、クイズ形式でお話していただきました。



第12問「大雨により土石流が発生するかもしれない…。避難する時は？」

- (a) とにかく下へ逃げる
- (b) 土石流が流れてくる方向から直角に逃げる

答えはお分かりですか？

日頃から家族で、「逃げる場所・集合場所・逃げる道筋・方法・時間」と「連絡方法」、「持ち出すもの」を話し合っておくことが必要であることをまとめとしてお話しされました。

猪又建設株式会社様からは、この防災教室で使用した100インチスクリーン1枚と、有事の際に活躍するリヤカー（折りたたみ式）2台を寄贈していただきましたので、ご紹介いたします。

根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育

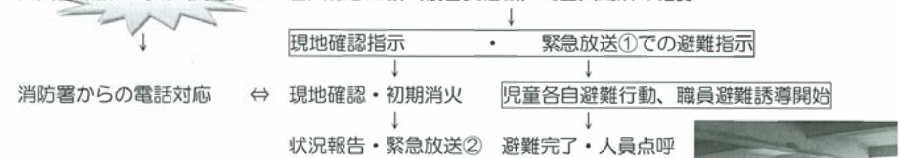


1. 第3回避難訓練

(1) 火災発生時の避難訓練

昼休み中（13：10）に火災が発生（火災警報機が鳴動）。児童は、自分で判断しながら安全な場所に避難しなければならない。職員は、校舎内に児童が取り残されていないかを確実に確認しながら、避難してきた児童の安全確認と安全確保をしなければならない。

火災警報機の鳴動（発報）→ 自火報感知機（複合受信機）で火災場所の確認



今回の避難訓練については、児童への予告をせず、昼休み中に実施しました。児童は、火災発生時の場所と避難場所を確認し、各自で近くの非常口から避難しました。教室から避難した児童は、いただいた防災頭巾を頭にかぶって避難していました。避難後に、市消防署の方から次のような講評をいただきました。



- ・避難指示放送から児童、職員の避難確認報告が完了するまで約3分、この学校規模における火災発生時の避難としては、とても速やかに避難し問題はありません。
- ・「お・は・し・も」についてもよくできていました。
- ・職員も声をかけながらトイレの中まで確認しており、問題点はありません。
- ・靴紐がほどけていたりする人はいませんか？（若干名挙手）日頃から避難行動を考え、靴紐がほどけないよう工夫するなど注意しましょう。

(2) 消火体験（バケツリレー）

バケツに水をくんで火元（90ℓポリバケツ）まで水を効率よく運ぶ訓練を行います。バケツ（8ℓ）を用いて、ポリバケツが水でいっぱいになるように縦割り班（4つ）で相談して運びましょう。

- ① 縦割り班ごとに相談し、4つの班で競うようにポリバケツへ水を運びました。どの班も8人が2～4mくらいの間隔で並び、次の人まで走ってバケツをリレーしながら水を運びました。水の入ったバケツ（約7kg）を持って走るため、重くつらい思いをしながらも水が結構こぼれてしまいました。
- ② 消防署員の方から、阪神淡路大震災の際にバケツリレーをして消火作業をしたことやそのときの方法について紹介してもらいました。その後、4つの班で協力し、全員が片手間隔（移動せずに手渡しできる間隔）で1列に並び、手渡しでバケツをリレーすることにしました。空になったバケツは、足の速い児童数人が走ってもとにもどす役を務めました。お互いに声をかけ合って行うことの大切さを学びました。また、楽に効率よく水を運べることに関する児童や自分の長所をいかせたことで役立てたという有る感をもった児童の姿が見られました。



①縦割り班で相談してバケツをリレーする様子

②消防署の方から説明を聞いてから、1列でバケツをリレーする様子

STAGE3:防災教育チャレンジプラン 2011 から 2012 へ・・・

0. 2011年12月12日 終わりになき始まり

2011年12月12日は、防災教育チャレンジプラン2012の応募締切日である。この日までに、糸魚川市内の学校が応募し、当校から**他校に引き継ぐことを目標**に取り組んできた。これは、単に大変だからと言う理由で他校に引き継ごうとした訳ではない。ここまでの**防災教育チャレンジプランで得られる貴重な学び**を当校だけにとどめておくことは、防災教育チャレンジプランの実践団体の使命ではないと考えていた・・・ところが、市教育委員会からもう1年取り組むよう依頼が・・・市内に広がらない！

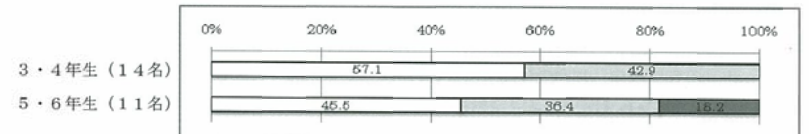
1. 2011年の成果

- ・地域の振興協議会をはじめ、公民館、さらに地域住民とのかかわりが深まり、手作り防災頭巾を寄贈していただくなど、学校教育に対してこれまで以上に、**地域・住民から協力的に活動を支援**していただいたこと
- ・地域で長年懸案だった**自主防災組織が次年度から立ち上がる**ことになったこと
- ・実践団体の特色ある取組や**実践団体の前向きな姿勢に触発**されたこと

2. 2011年の課題

- ・取組の2本柱の一つである「総合的な学習の時間での防災教育の実践」については、これまでの学びに防災の視点を取り入れたが児童評価はあまり高くなく改善の余地があること
問：総合的な学習の時間の学習では、調べたことだけでなく、「根知の自然（ジオパーク）」と「災害」、「地域の人々の生き方」の3つについても考えることができたか？

とてもそう思う
 どちらかというと思う
 どちらかというと思う
 どちらかというと思う
 ぜんぜんそう思わない



- ・「特別賞を受賞しても実感が持てない。自分はほとんど何もしていない気が・・・」という職員の声があり、**取組における教職員の効力感、達成感が不十分**（特定の職員の取組）であったこと
- ・防災教育に取り組むことの重要性や防災教育チャレンジプランの実践団体として取り組むことのメリットを市内の学校、教育委員会等に周知し、**市内全ての学校が（市をあげて）防災教育チャレンジプラン2012に応募**するような動きかけができなかったこと

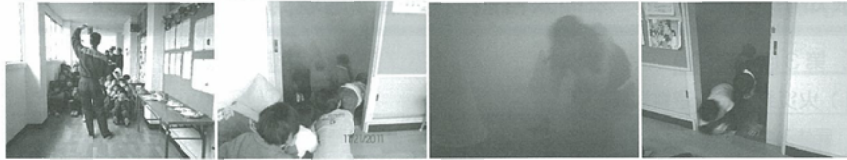
3. 2012年度の重要取組事項は

2011年度は、教職員が1名少なくなった中で、防災教育チャレンジプランの他に市の社会福祉研究普及校の指定（3年間）を受け、さらに中学校区の学力向上にかかわる共通取組事項を実践してきた。そして、2012年度は、防災教育チャレンジプランと**社会福祉研究普及校の取組**に加え、**中学校区における心の教育の共通取組事項の実践**、さらに**創立40周年記念事業の実施**と新たな取組事項が・・・

(3) 煙道通過体験

火災時の煙は有毒です。ハンカチや衣服の袖で口をおさえ煙を吸い込まないようにしなければなりません。煙は上の方からたまるので、身を低くし煙の薄いところを通る必要があります。

消防署の方の話を聞いた後、緊張しながら煙でほとんど前が見えない教室の中をはうようにして移動しました。みんな口を押さえながら、目印のコーンをたよりに必死に前に進みました。



(4) 「あっ火事だ！煙だ！どうなる？どうする？」

煙道体験後に、消防署の方から火災発生時の行動の仕方について学びました。

- ・学校の訓練はこれからを生き抜くために行われます。煙は本当に危険です。この訓練をぜひいかしてほしいと思っています。自分だけで、何とかしようと思うのではなく協力を求めることが大事です。
- ・今回、バケツリレーは 一列で行いましたが、ちどり方式もあります。（省略）
- ・自分達のことは自分たちで守ろう！練習すれば上手くなる。上手くなると自信をもってできる。うまくできるようになってそれが身に付くのです。
- ・根知小は防災教育に熱心に取り組んでいますが、学んだことを他の人にも教えてあげられるようになりましょう。みんながけん引役となってください。
- ・学校のような建物は、廊下の煙りは窓を開けて排煙してください。木造建設は、黒くて黄色みのある煙がでます。フラッシュオーバーがあり、窓を開けるのは危ないです。
- ・子どもが起こす火事としては、火のいたずらが多いです。
- ・消火器で消せる火は、天上に火が届いていない状態のもので、天井に火が届いていたら消火を考えずに人に知らせ逃げましょう。
- ・粉の消火器は、使用すると粉で回りが見えなくなるので逃げ道を確認してから使用しましょう。
- ・消火器は、子どもでも扱えるが、安全を最優先してください。（子どもでも使えるようになって欲しいと思います。）



(5) 職員研修

放課後、災害時の対応について消防署の方を講師として職員研修を行いました。消火栓とポンプの場所の確認やホースの取り出しと収納の仕方も確認しました。最後に、これまでの防災教育については、「問題がないので、この方向で迷わず進めてほしい」と力強いお言葉をいただきました。

2. 公民館大会（地域防災懇談会⑤）

根知公民館主催の公民館大会が下記の内容で行われました。当日は、当校職員も参加し、地域防災について研修を行いました（地域防災懇談会）。地域防災においては、「人と人とのかかわりが重要であること」を確認しました。当校でも、来年の防災教育では、「人と人とのかかわりを重視」して取り組んでいきたいと考えています。

- ①東日本大震災等パネル展示（9：00～16：00）
- ②非常食の調理体験と試食（11：00～12：30）
- ③講演「日本海の地震と津波」（13：10～14：10）
講師 竹之内 耕さん（市学芸員）
- ④講演「災害と公民館・コミュニティ」（14：20～15：10）
講師 茂田井 信彦さん（米山公民館長）
- ⑤実践発表 「防災教育チャレンジの取組」（15：20～15：50）
発表者 宮川 高広（根知小学校教頭）
- ⑥実践発表 「自主防災組織の設立の取組み」（15：55～16：20）
発表者 源馬 幹一さん（根知振興協議会総務）

